

# 東京薬科大学新聞

発行所 東京薬科大学新聞会  
責任者 原 太志

六月号

# 学生の関心さらに離れる

## 執行委員会役員選挙

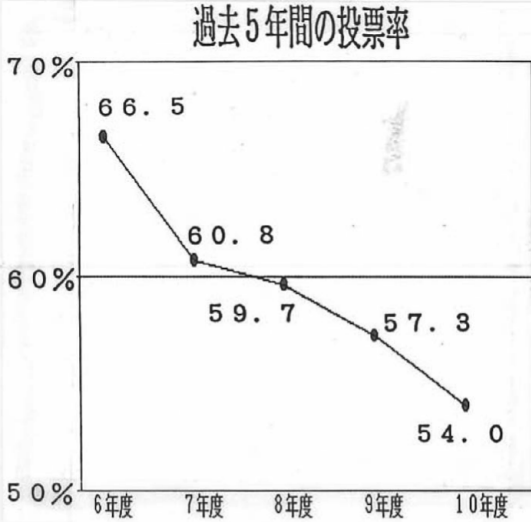
五月二十、二十一日に、平成十年度学生自治会執行委員会役員選挙が行われた。結果は以下の通りである。

- 執行委員長 一四一七票  
石塚隆浩  
副執行委員長 一四〇九票  
竹村彰  
田代法子 一四〇七票  
(敬称略)

全有権者数二六六〇人のうち、投票総数は一四三六票であった。又、投票率は五四％で、前年度の五七・三％より三・三％低下した。

平成六年度を境に、年々低下し続ける投票率が問題になっている。このまま低下し続けていくと、五十％を下回り選挙が成立しなくなるのも時間の問題だろう。

今年度から所属団体に投票者数を集計し、公表することになった。各部門別に投票率の高い三団体を記載する。



- 一、硬式庭球部(女) 九二％  
二、ゴルフ部 七四％  
三、硬式庭球部(男) 七〇％  
文化部門 九〇％  
一、合唱団 九〇％  
二、ハルモニオ管弦楽団 五八％  
三、焼物クラブ 三八％  
学術部門 五七％  
一、植物研究部 四九％  
二、漢方研究会 二五％  
三、微生物研究部 二五％

「選挙は信任投票という形で行われましたが、皆の信任が得られて安心しました。これからの一年間で何ができ、何を残せるかは分かりません。しかし、学生の皆さんがより生活しやすい学校作りを目指したいと思っています。簡単ではありますが、以上で所信表明とさせていただきます。」

執行委員長に信任された石塚さんに、これからの抱負を伺った。

執行委員会は、部室棟の管理や駐車場の使用等に関わる重要な機関だ。その為選挙が不成立になった場合、部室が使用不可能になってしまう。

「選挙は信任投票という形で行われましたが、皆の信任が得られて安心しました。これからの一年間で何ができ、何を残せるかは分かりません。しかし、学生の皆さんがより生活しやすい学校作りを目指したいと思っています。簡単ではありますが、以上で所信表明とさせていただきます。」

## 五人の王妃の物語展

「絶世の美女と詠われたオーストリア皇妃、エリザベータの死から百年が経とうとしている。それを記念して、新宿三越(南館)の美術館において「華麗なるハプスブルク家 五人の王妃の物語展」が、六月二十一日まで開催されている。この五人の王妃とは可憐な少女マルガリータ・テレサ、偉大なる女帝マリア・テレジア、悲劇の王妃マリー・アントワネット、美貌の皇妃エリザベータ、オーストリア帝国最後の皇妃ツィタである。

ハプスブルク家は、十三世紀から今世紀初頭にわたって、オーストリア周辺をはじめ、中南米、東アジアにまたがる広大な領地を支配し、政治や文化の中心となった。つまりハプスブルク家の歴史は、ヨーロッパの歴史そのものであった。そして、その歴史の中で彼女達は、夫である皇帝達を影で支え、喜びと悲しみを共にした。その波乱に満ちた生涯にスポットを当てたのが本展である。

会場には、ウィーン美術史美術館に所蔵されている品々を中心に、王妃達が実際に身につけていた衣装や装飾品、肖像画、調度品、写真などが所狭しと展示されている。特に本展の見所は、ベラスケス作「白い服をまとったマルガリータ」だ。

リータ王女の五歳の肖像。この絵画は、当時のお見合い写真に当たり、幼い王女が生き生きと描かれている。その他の展示品もとても華やかで、実際に宮殿の中にあるような気持ちになる。また、会場には彼女達の生涯について、詳しく説明やビデオも用意されている。そのため、ヨーロッパの歴史について詳しくない人も、十分楽しめるだろう。

## 学内展

今月中旬、毎年恒例となっている学内展が、文化部門主催で開催される。

この学内展には、早くも一年生が参加する。今年度は各部活とも、たくさんの新入生を迎え、四月に行われた春展に比べ、より大規模なものとなる。また、新しい感性が加わることで、よりユニークな作品を目にすることが出来るだろう。普段こういった芸術に触れる機会がない方も、是非この展示会に足を運んで欲しい。

日時 六月十七日(水) 二十四日(水)  
場所 厚生棟P1T  
参加団体 華道部 写真部 美術部 やきものクラブ

## 御意見箱

新聞会では、学生部の横に御意見箱を設置しています。これは東京薬科大学新聞の記事に、学生の意見等を取り入れるためのものです。具体的には、取材してほしい映画や展覧会の推薦、記事に対する批評等です。さらに、大学生生活を過ごす中で感じた個人的な提案も、紙面に反映させます。その例として、過去にこの箱に入っていた投稿をもとに、記事が作られたこともありました。また、演奏会の告知や部活の大会日程、結果の報告等も受け付けています。

本紙は多くの学生に読まれています。自分の意見を載せたい人や部活の代表者がいまだらば、是非御意見箱を利用して下さい。

なお近頃、御意見箱にゴミを捨てる人がいます。学生と新聞会をつなぐ大切なものなので、心無い行為は絶対にして下さい。

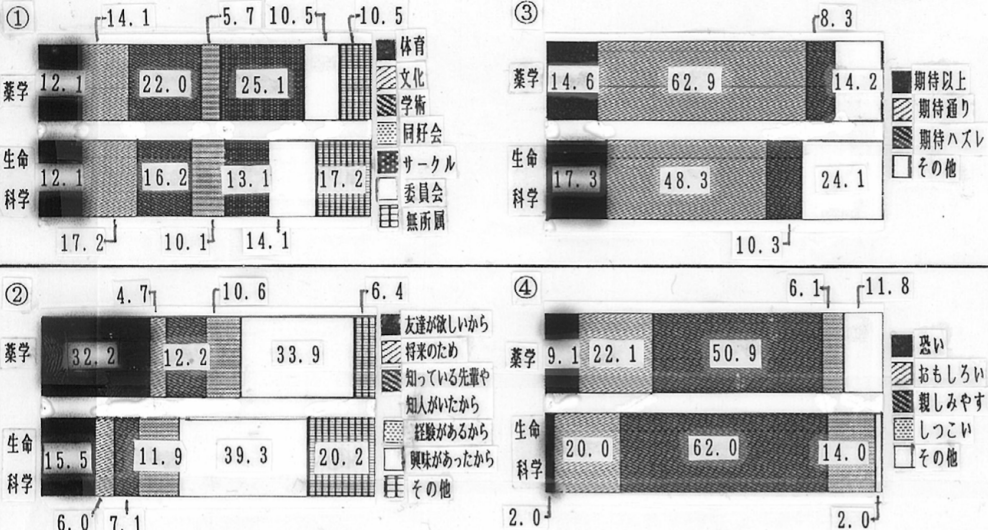
## 薬味

六月に入ると新歓行事も一段落つき、酒に疲れた私達の肝臓も、ようやく一休みできる。コンパでは大いに酒を飲んでしまい、正体を失って友達に顔向けできなくなった人もいるだろう。今回はそんな原因となる「酒」について書いてみたい。酒と聞いて何を思い浮かべるのだろうか。ビールやワインなどの洋酒を思い出す人も多いだろう。しかし、私の場合「酒」とはあくまでも日本酒である。日本酒にはいくつもの楽しみがあるが、特にあの芳醇な香りはたまらない。また、飲み方の楽しみには冬場の熱燗がある。ほわっと上がる湯気を見ていると、何だかとても幸せな気分になれる。もちろん、時には値の張る冷酒を買い、酒の味が良く分る冷酒で味わうのも良い。一般的に、日本酒を飲むことを一献(いっこん)という。これは宮廷の神事に際し、大きな盃に満たされた酒を一盃の全員にまわして、一巡することをいったものらしい。三献が普通であったというから、酒が飲めなかった人には、さそかしつらい酒宴であったに違いない。酒の席で重要なのは、やはり場の雰囲気だろう。気がおけない友と飲めば、楽しさについて時間を忘れてしまう。だが社会人にもなると、接待で誰とも酒を飲まなければならない場合もあると聞く。何とも気の重いことである。節度を持って酒を飲むことは、ストレスを解消し、人間関係をより良くしてくれる。しかし、何事も過ぎたるは及ばざるが如しだ。酒を飲んで、酒に飲まれてしまつては洒落にならない。急性アルコール中毒になったり、警察のお世話にならないように気をつけて欲しい。(久方)

# 今年度入部傾向

## アンケート結果発表!

先日、新入生に対して入部状況のアンケートを行った。今年の回収率は、五五・五パーセントと例年よりも低かった。結果は左のグラフの通りである。



「①あなたはこの部門に所属していただけますか」という質問では、次のような特徴が見られた。まず第一に、薬学部では

学術・サークルが比較的多かったのに対し、生命科学部では全体的に大きな偏りは見られなかった。この理由は、学術には薬学部の内容を取り扱った団体が多いためと考えられる。第二に、生命科学部では薬学部と比べて、無所属がやや多かった。これは先の理由とともに、薬学部には授業数が多いので、時間的に余裕が無いと思われる。また、両学部とも入部しない理由として、アルバイトを挙げている人が多く、学校外の活動に意義を見出し出ているようだ。ちなみに所属した団体の数を見てみると、一つという人が多かった。少数だが三つ以上の団体に所属している意欲的な人もいた。

「②入った理由は何か」という質問に対して、両学部ともに「興味があったから」「友達がいから」という意見が大きい割合を占めた。このような結果になったのは課外活動を友達つくりの場と考えている人や、何か新しいことを始めようとする人が多いからだろう。その他には、「先輩が優しそう」「体を動かしたい」「雰囲気がいよ」などといった様々な意見が集まった。

「③入ってみてどうですか」という質問に対しては、新入生の満足度の高さが窺えた。「期待通り」と「期待以上」をあわせた割合が七割にも達した。しかし、残念なことには「期待はずれ」と答えた人も一割程度。そのように答えた人も、やめなくて続けてみ

た人も、やめなくて続けてみれば、課外活動において新たな楽しみを見つけれられるだろう。

「④上級生の勧誘はどうでしたか」という質問では「親しみやすい」と「おもしろい」が過半数を占めた。多くの新入生は、上級生の勧誘に対して良い印象を抱いていたようである。だが、「しつこい」「怖い」という意見も少なからずあった。新入生に部活・入会して欲しいという期待度も分かるが、ある程度の節度は守って欲しい。これを機会に、これからの部活動の勧誘の見直しにつながれば幸いである。

去る五月十六日(土)に体育部門主催のマラソン大会が行われた。当日は一般参加者や研究室所属者などを合わせて九五六人が参加し、男女に分かれて順位を競った。仮装している参加者もおり、それぞれが思い思いの格好で走っていた。コースには起伏の激しい所もあり、今回初参加の自には辛かったようだが、各人のペースで完走していた。

なお、各所属ごとの結果は左表の通りである。最後に体育部門長の岸本大裕さんに感想を伺った。

「今回のマラソン大会は、私達の執行になって、最初の大きな仕事でした。しかし、無事成功させることができたのは、体育部門はもちろん学術部門、新歓実行委員の協力あっての事と思います。ありがとうございました。」

一年男子		
一位	熊木 雄一	陸上競技部
二位	光岡 孝史	ハルモニア
一年女子		
一位	大谷 磨耶	スキー部
二位	奥田 菜々子	バスケット部
一般男子		
一位	流石 学	陸上競技部
二位	坂田 悟	陸上競技部
一般女子		
一位	山崎 明子	硬式野球部
二位	梅本 絢子	硬式野球部
研究室男子		
一位	鈴木 一史	第二薬理学
二位	関水 康成	第一生化学
研究室女子		
一位	木下 あさ子	第二薬品分析化学
二位	平沢 舞子	臨床生化学
職員		
一位	田村 和広	第二薬理学
二位	林 昌樹	物理

# マラソン大会

# 検察の使命

先日、交通事故で息子を失った両親が、検察が下した処分を不服とし、東京第二検察審査会に異議申し立てを行った。

昨年十一月、当時八歳の少年がダンパーカーにはねられ死亡した。その後、運転手は逮捕されたが、検察は十分な段階で打ち切った。その結果、運転手は釈放され不起訴処分となり、この処分理由については何も説明されなかった。しかし、その事柄に納得のいかなかった両親や世論の反響を受け、最終的に検察側はこの対応について謝罪した。なぜ検察はこの様な不十分な対応をしたのだろうか。

この背景には交通事故の急激な増加により、検察が全てのケースに対応しきれないという現状がある。また、年末の担当者交代により、来年に事件を持ち越さない様に、処理を急いでいた事も考えられる。検察は、この事を隠すため強硬な態度を押し通し、事実を隠す事で、担当者を留任させるなどの柔軟な対応をするべきであったろう。

検察の判断は、その人の人生を大きく左右する事もある。しかし、今回のケースの様に、検察側の事情で不当に処理された事件は決して少なくない。それを念頭に置き、検察の使命にのっとった公正な事故処理と、的確な対応をしてもらいたい。(佐藤)

# 編集後記

あれやこれやで今頃はテストと課題の嵐(涙) ああゲムがやりやい。(暁月)

私の周囲で、ガガガしているものを三つ。気持ち、お肌、プリントの山。(蘭マ)

最近めっきり冷え込んできましたね。凍死しそう(松)

最近とても寂しいです。誰か遊んで。(葉月)

空風邪を引いて、演習休んじやいました。ちゃんと栄養摂ってるのに。みんな鬼にやさしくしてね。(魚)

ううう、風邪ひいたよ。ワインのブーケも判んない。困ったな。(久方)

まこの前の土曜、皆で窓から飛び降りました。(L)

◎東京優勝はセイウンスカイから行きたい。横山騎手も二冠達成◎(馬券師謙枝守)

◆ゆっくり眠りた。(直)

◎左右両方の奥歯が虫歯になった。応急処置はしたが、いっつかは大学病院で手術しなければならぬ。(奏穂)

★みんなおつかれさま。(直治)

よくねむってね。(直治)

行事予定

六月

十七日(水) 学内展

二十四日(水) 合唱団定期演奏会

二十日(土) 合唱団定期演奏会

そのころ半袖の時期。バス停でバスを待っていると、蚊の餌になってしまいう時期でもある。ところで、最近気づいたが、蚊の性格には地域差があるらしい。東京の蚊はホケテている。同じ家の中にいながら、一週間近く我々に手を出さなかった。ちなみに故郷の蚊は、同じ部屋で寝ていると絶対に顔面を刺してくる嫌なヤツである。(蘭マスター)